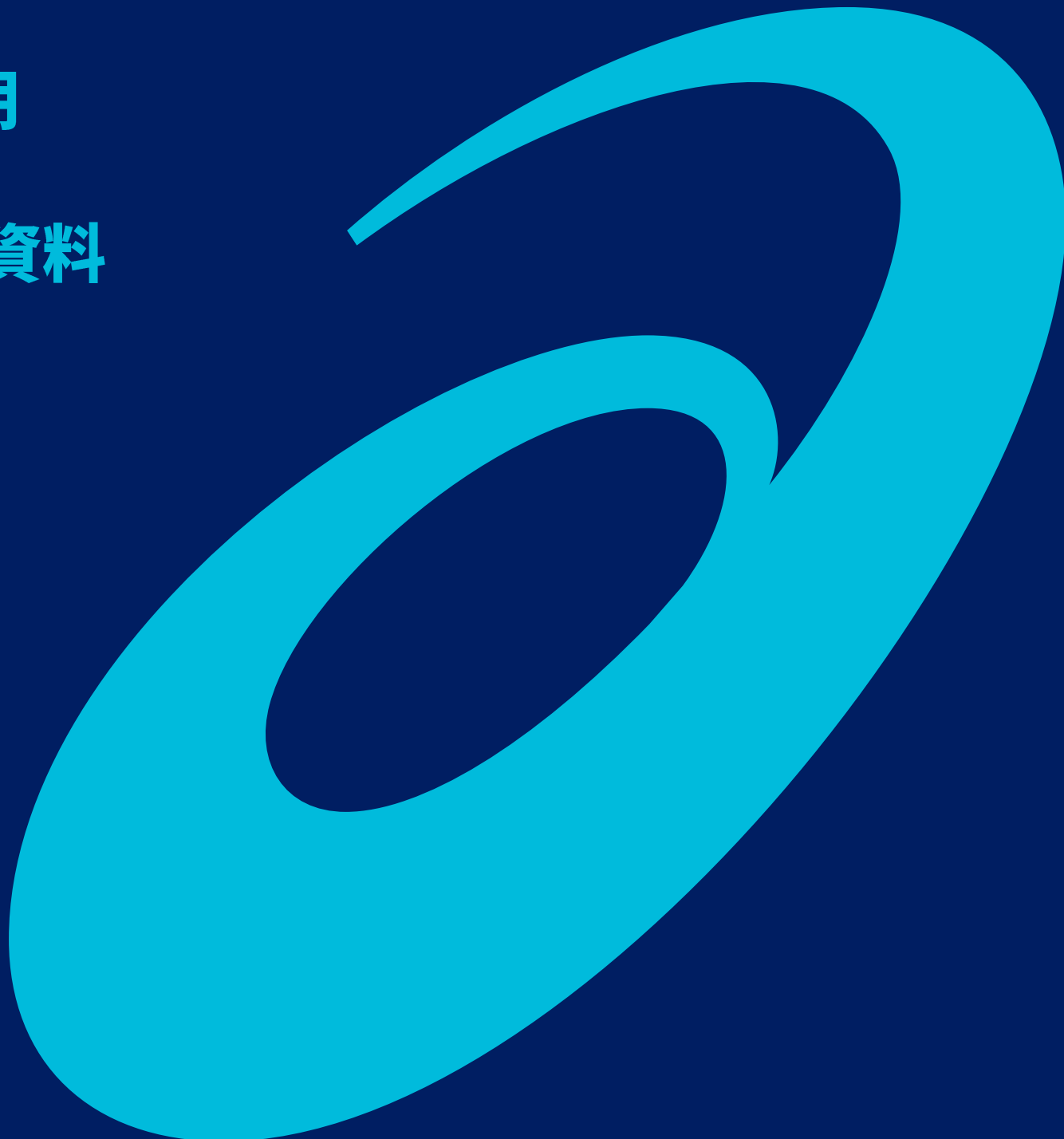


**2020年12月期
第3四半期
決算補足説明資料**

**株式会社アシックス
2020年11月6日**



1. 連結業績
2. 連結経営成績（カテゴリー別）
3. 連結経営成績（地域別）
4. 連結財政状態
5. 連結業績予想
6. 補足

DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみに全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

- ✓ 第3四半期期間は増収（+2%）増益（+75%）。
累計では、新型コロナウイルスの影響で減収減益も、年間では上方修正。
- ✓ 第3四半期期間において、カテゴリー別でP.Runの成長が顕著。
地域別で欧州、中華圏およびオセアニアが牽引。加えて、販管費
コントロールの強化もあり、営業利益は第2四半期までの赤字から黒字へ。
- ✓ EC売上は前期比2倍超に成長。
- ✓ 工場に対する生産キャンセル料を当初より大幅に削減後、第3四半期で
計上。
- ✓ 在庫は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連在庫
（45億円）を除くと前期比△72億円（△8%）と改善。
（前期末 931億円→第3四半期末 906億円）

新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響 (第3四半期期間)

生産

- ✓ 世界的な生産需要の減退により一部の地域で稼働時間や稼働日の調整はあったものの、直近では生産必要数が大幅に増加。

直営店

- ✓ 日本：全ての店舗で営業再開。
- ✓ 米国：ほぼ全ての店舗で営業再開。
- ✓ 欧州：ほぼ全ての店舗で営業再開。
- ✓ 中国：全ての店舗で営業再開。

販売

- ✓ 得意先店舗の臨時休業等があるものの、欧州の牽引により第3四半期期間では増収。
- ✓ EC売上は、第3四半期累計で前期比2倍超と大幅に伸長。

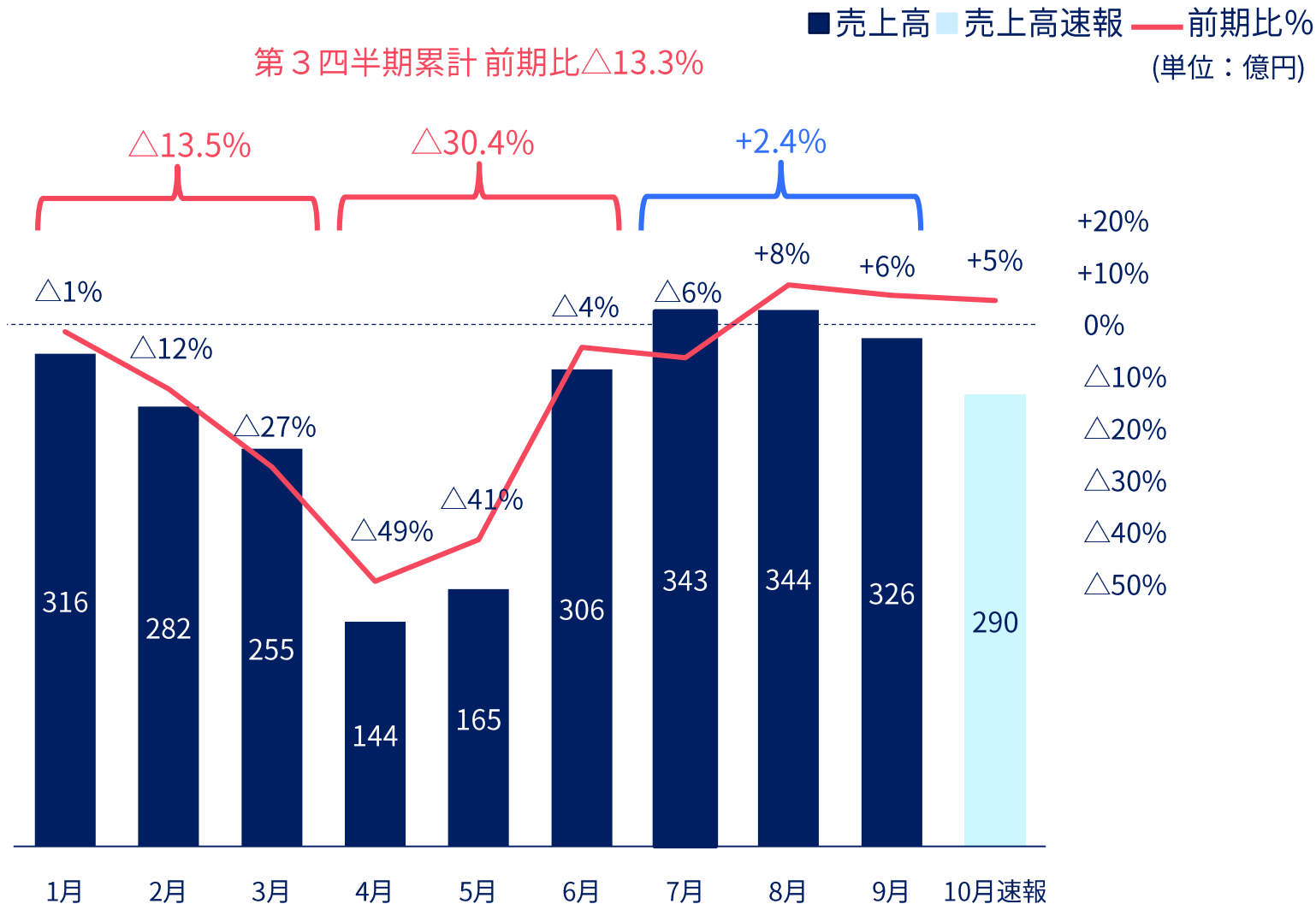
直近の状況

- ✓ 欧州における新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて、一部店舗にて臨時休業。

連結売上高（月別・四半期別）



- ✓ 2月以降店舗の休業等で売上が大幅に落ち込んだが、中華圏・欧州・北米と順次回復し、8月以降は前期比増収で推移。第3四半期期間はP.Runが牽引し想定以上に回復。



※ 10月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じることがあります。

連結四半期別 売上高成長率（カテゴリー別）

- ✓ 第3四半期期間は連結で2%の増収。
- ✓ P.Runはランニング人口の増加を追い風に、第3四半期期間で欧州、中華圏を中心に成長。
- ✓ SPSは第3四半期期間で欧州、オセアニアが回復し増収。

	FY20 Q2 累計	FY20 Q3 期間	FY20 Q3 累計
P.Run	△15.1%	+18.8%	△3.6%
CPS	△25.5%	△3.5%	△18.0%
SPS	△22.7%	+5.4%	△12.6%
APEQ	△36.3%	△14.1%	△28.8%
OT	△31.6%	△19.3%	△27.4%
連結	△21.5%	+2.4%	△13.3%

業績予想の修正・ポイント



				2020年12月期 今回予想	2020年12月期 前回予想	増減率
売	上	高		3,200	3,000	+7%
営	業	利	益	△60	△140	-
営	業	利	益	率	△4.7%	-

- ✓ コロナ禍でランニングを志向する人が増加する中、主要取引先との連携強化やデジタルでの取組みが奏功し、米欧中で売上回復.
- ✓ 販管費の継続的な削減を遂行し、第3四半期期間は前期比で大幅に増益.
- ✓ 営業利益は新型コロナウイルスによる経済活動の低迷を考慮した前回予想を大幅に上回る.
- ✓ 但し、新型コロナウイルス第2波の影響により、第4四半期期間の売上は前期比約20%の減少を見込む.

1. 2020年12月期 第3四半期連結業績

- 2020年12月期第3四半期 概要
- 連結決算ハイライト
- 販管費削減の進捗状況
- 連結売上高内訳（カテゴリー別）

売上高

前期比：△379億円 △13.3%（為替影響除く増減 △313億円 △11.0%）

◆ 新型コロナウイルスの影響により減収。

- ✓第3四半期期間は、一部地域で新型コロナウイルスの影響はあるものの、P.Runは前年同期比+81億円（+19%）と大幅増収。
- ✓ECは好調に推移し、前期比2倍超の成長。

営業利益

前期比：△94億円 △74.1%（為替影響除く増減 △90億円 △70.9%）

◆ 第3四半期期間の営業利益は71億円と前年同期比+31億円（+75%）と大幅増益。

- ✓粗利率はEC売上増加に伴うチャネルミックスの影響（+0.4ppt）で上昇するも、工場に対する生産キャンセル料計上により下落。
- ✓販管費コントロールで前期比88億円削減（なお、当初計画比は313億円削減）。

四半期純利益

前期比：△103億円（為替影響除く増減 △101億円）

- ✓ 新型コロナウイルスに対する政府・自治体からの要請等による直営店の店舗臨時休業期間の固定費24億円を特別損失に計上。
- ✓ 欧州において経営合理化に伴う特別退職金を計上。
- ✓ 米国における法人税の還付を計上。

連結決算ハイライト



(単位：億円)

	2019年 (FY19 Q3) 実績	2020年 (FY20 Q3) 実績	前期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	2,861	2,482	△379 △13.3%
売上総利益	1,343	1,161	△182 △13.6%
売上総利益率	47.0%	46.8%	△0.2ppt
販管費	1,217	1,129	△88 △7.3%
販管費率	42.6%	45.5%	+2.9ppt
人件費	407	370	△37 △9.0%
広告宣伝費	241	201	△40 △16.6%
広告宣伝費率	8.4%	8.1%	△0.3ppt
賃借料	97	77	△20 △20.6%
減価償却費	89	91	+2 +2.4%
その他経費	383	390	+7 +1.8%
営業利益	126	32	△94 △74.1%
営業利益率	4.4%	1.3%	△3.1ppt
経常利益	131	2	△129 △98.0%
特別損益	0	△35	△35
親会社株主に帰属する 四半期純利益	69	△34	△103 -

	FY19 Q3	FY20 Q3	増減額	増減率
海外売上高	2,087	1,901	△186	△8.9%
海外比率	72.9%	76.6%	-	+3.7ppt

為替影響		△66	
為替影響除く 連結売上高増減	△313		△11.0%

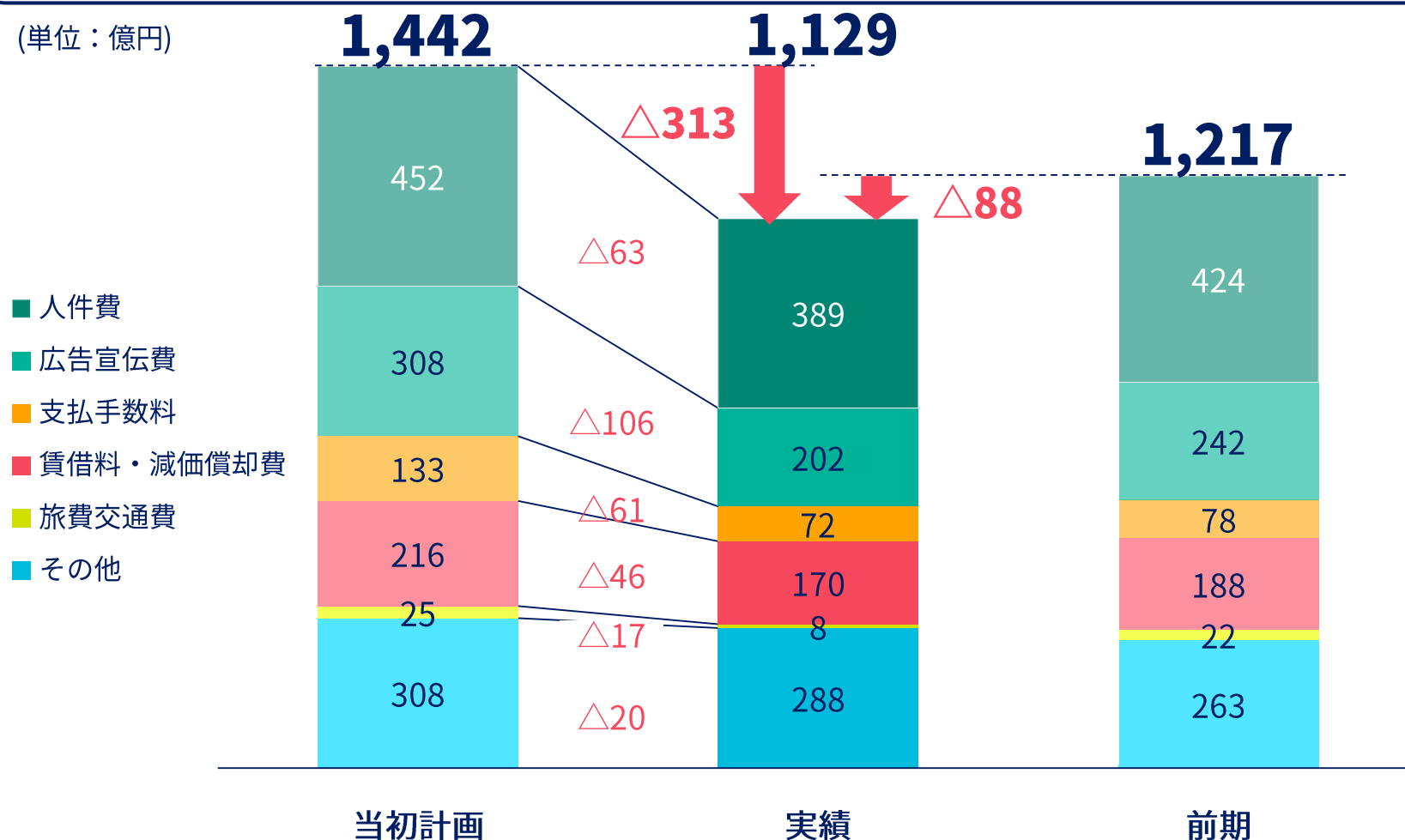
<参考：平均為替レート(円)>

	第3四半期(1~9月)	
	19年実績	20年実績
1ドル	109.27	107.33
1ユーロ	122.78	121.22
1人民元	15.93	15.35

販管費削減の進捗状況（第3四半期累計）

- ✓ 年間の販管費削減目標は当初計画比326億円（第2四半期決算時発表）。
- ✓ 第3四半期累計時点での削減額は313億円（新型コロナウイルス影響による店舗休業費用の特別損失への振替24億円含む）。
- ✓ 前期比においても88億円の削減（上記特損振替・一時的イベントの影響を除いた実質削減額は100億円）。

（単位：億円）



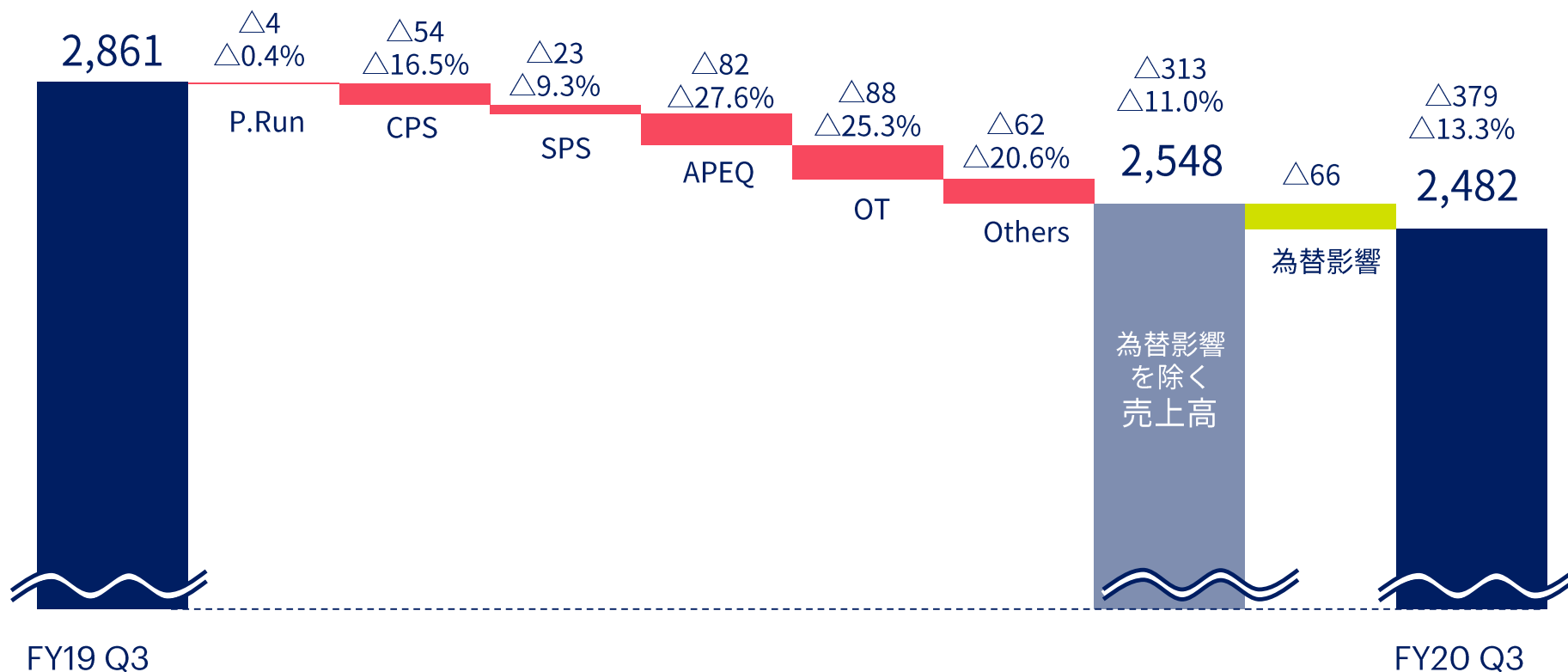
※一部コストは開示上、研究開発費へ組替しており、連結決算ハイライトのスライドと金額は一致していません。

連結売上高内訳（カテゴリー別）

- ✓ 新型コロナウイルスの影響で全カテゴリー減収も、当第3四半期累計は減収率が縮小.
- ✓ P.Runは減収率0.4%（為替影響除く）と前年同期並み.
- ✓ 第3四半期期間では為替影響含み、P.Runが+19%、SPSが+5%の増収.

上段：増減額
下段：増減率

(単位：億円)



※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております.

2. 2020年12月期第3四半期 連結経営成績 (カテゴリー別)

- － カテゴリー別連結売上高
- － カテゴリー別業績

カテゴリー別連結売上高

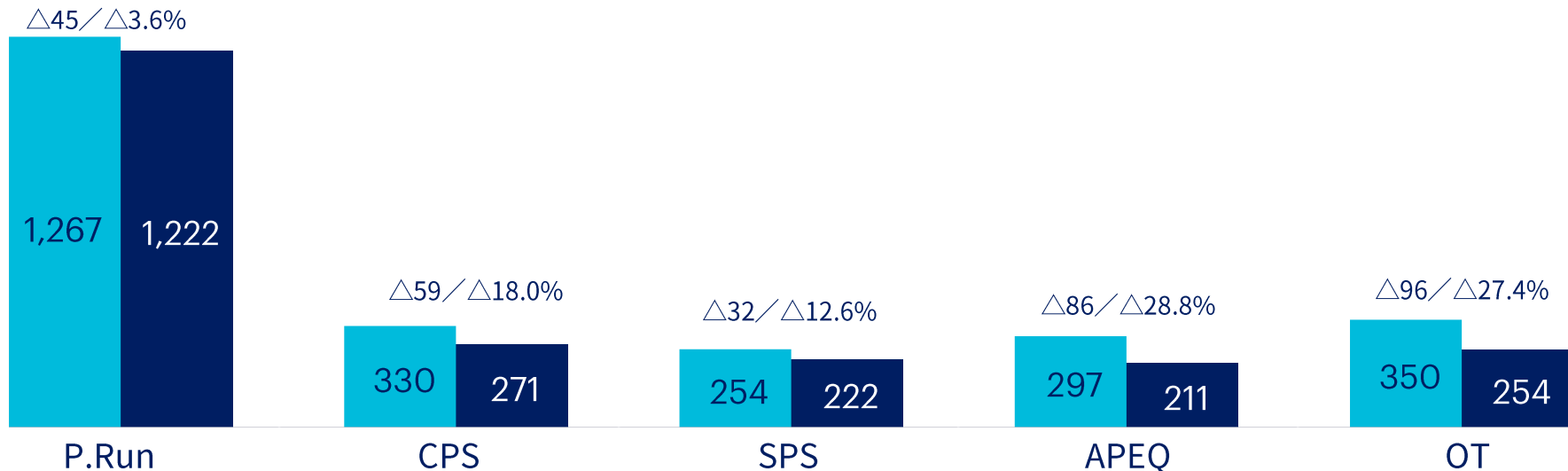


<売上高>

増減額／増減率（邦貨）

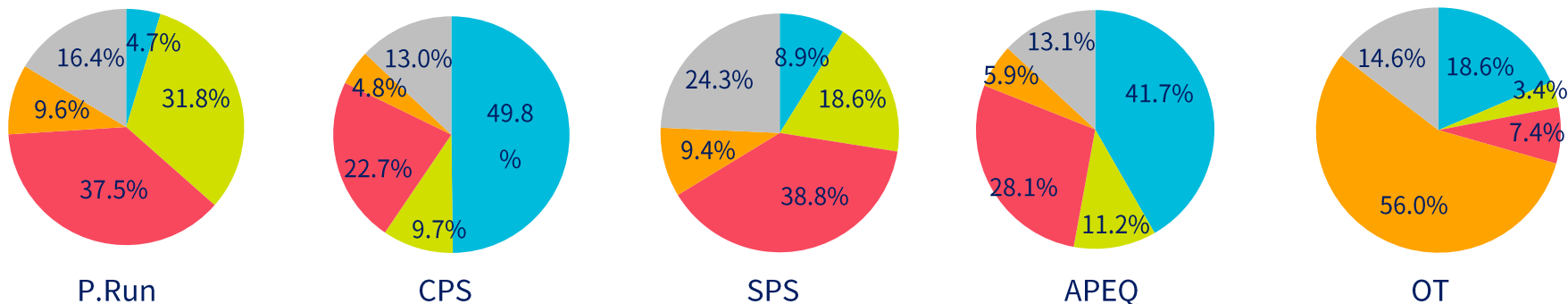
■ FY19 Q3 ■ FY20 Q3

（単位：億円）



<カテゴリー別地域別売上高構成>

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ その他



※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。



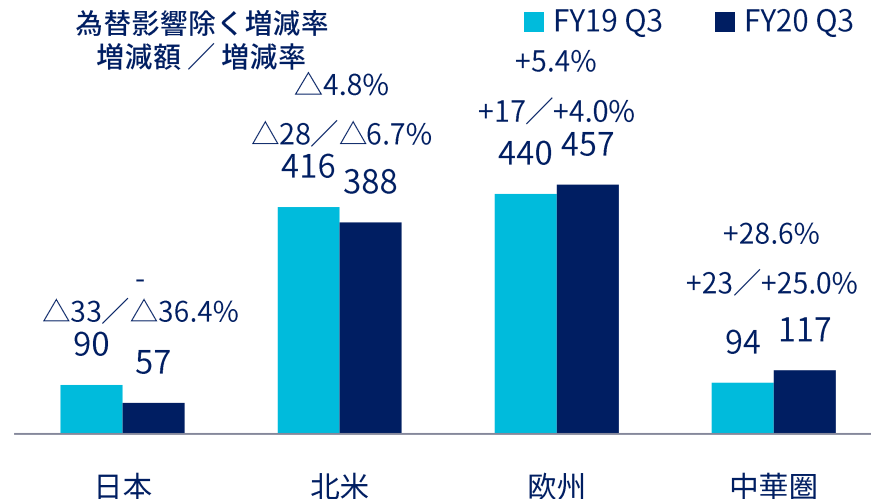
<第3四半期業績>

(単位：億円)

	FY19 Q3	FY20 Q3	前期比 増減額	増減率
売上高	1,267	1,222	△45	△3.6%
為替影響除く増減		1,263	△4	△0.4%
営業利益	49	95	+46	+92.3%
営業利益率	3.9%	7.8%	-	+3.9ppt

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>



売上高

- ◆ 欧州、中華圏、オセアニアが増収となり、為替影響を除き前年並みまで回復。
ランニング人口の増加を追い風に、デジタル強化や新たなランナーの取り込みを実施。
- ◆ 第3四半期期間は前期比+19%の増収。特に欧州が+41%、中華圏が+37%、北米が+8%。
- ◆ ECが大幅に増加。特に北米が+170%、欧州が+157%。

営業利益

- ◆ 粗利率の改善+1.3pptに加え、販管費のコントロールにより大幅増益。

今後の取組み

- ◆ ランニング専門店との関係強化やデジタルでの商品訴求を継続し、マーケットシェア拡大を図る。
- ◆ 11月に「ASICS Runkeeper」を利用したバーチャル駅伝レース「ASICS World Ekiden 2020」を開催。
- ◆ 履いて走るだけでランニング中の足の動きをデータ化できるスマートシューズ「EVORIDE ORPHE」を発売。

コアパフォーマンススポーツ (CPS)



テニスシューズ
GEL-RESOLUTION
8 L.E.

asics

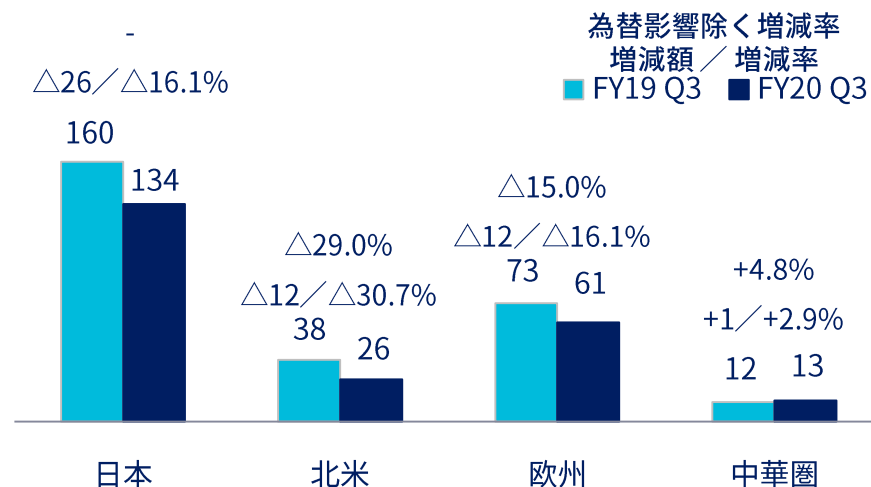
(単位：億円)

<第3四半期業績>

	FY19 Q3	FY20 Q3	前期比 増減額	増減率
売上高	330	271	△59	△18.0%
為替影響除く増減		276	△54	△16.5%
営業利益	△0	△6	△6	-
営業利益率	△0.3%	△2.2%	-	△1.9ppt

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>



売上高

- ◆ 新型コロナウイルスの影響により減収。
- ◆ 日本では、引き続きワーキングシューズが好調。

営業利益

- ◆ 広告宣伝費を中心とした販管費を削減したものの、減益。

今後の取組み

- ◆ テニスの全仏オープンで初優勝したイガ・シフィオンテク選手らを活用したデジタルマーケティング活動を実施。
- ◆ 欧州においてASICS Tennis Academyを開始し、コーチを通じてエンゲージメントの高いテニスコミュニティの構築を目指す。

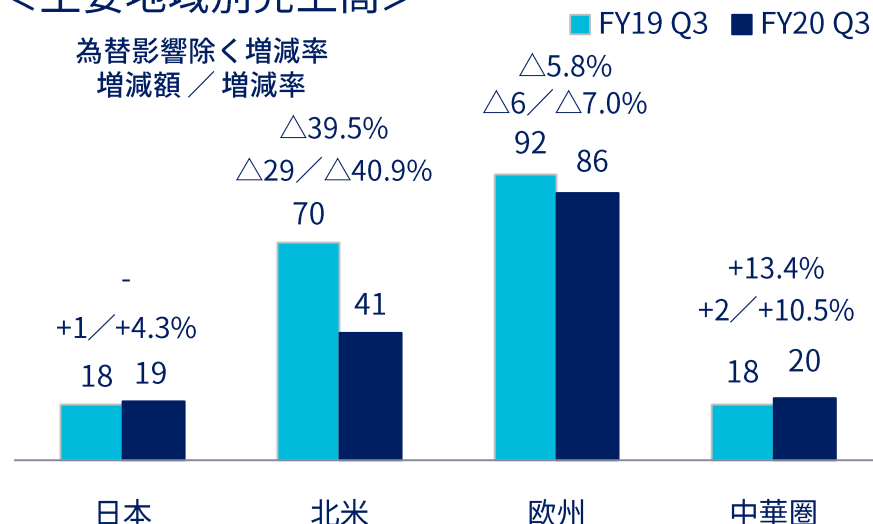


<第3四半期業績>

	FY19 Q3	FY20 Q3	前期比 増減額	増減率
売上高	254	222	△32	△12.6%
為替影響除く増減		231	△23	△9.3%
営業利益	1	△0	△1	-
営業利益率	0.6%	△0.1%	-	△0.7ppt

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>



売上高

- ◆ 第2四半期までは新型コロナウイルス影響が大きく減収となるも、第3四半期期間では前期比+5%と増収。
- ◆ オセアニア +10億円：ライフスタイルにおいて認知が大きく向上。

営業利益

- ◆ 北米での粗利率改善に加え、グローバルで販管費削減を進めたもののわずかに減益。

今後の取組み

- ◆ 年末商戦に向けても粗利益確保を意識した販売を実施し、前期比で粗利率の改善に重点を置く。
- ◆ 21SSシーズンの生産発注の精査及び仕入管理を徹底し、継続的に在庫管理を強化。

アパレル・エキップメント (APEQ)



LITE-SHOW
コレクション

asics

(単位：億円)

<第3四半期業績>

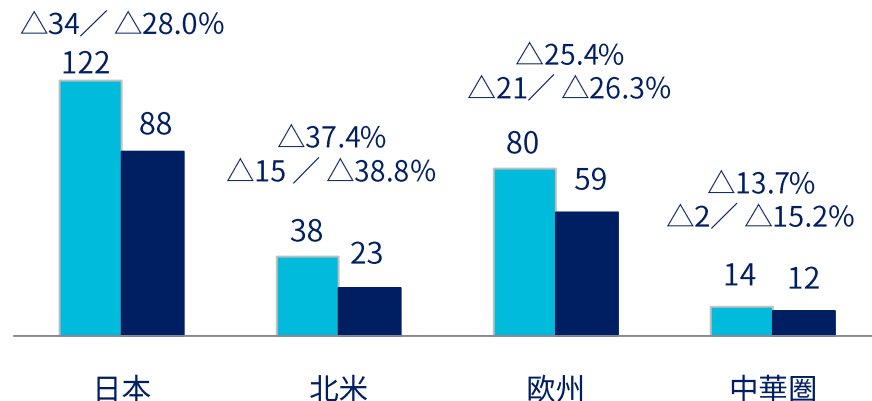
	FY19 Q3	FY20 Q3	前期比 増減額	増減率
売上高	297	211	△86	△28.8%
為替影響除く増減		215	△82	△27.6%
営業利益	赤字	赤字	-	-

※一時的イベントにおける影響を除いた数値を表記しております。
前年も同様に一時的影響を除いた数値に組み替えて算出した数値を表記しております。

<主要地域別売上高>

為替影響除く増減率
増減額 / 増減率

■ FY19 Q3 ■ FY20 Q3



売上高

◆ 新型コロナウイルスの影響により減収。

営業利益

◆ 減収影響があったものの、販管費を前期比で24%削減し、わずかな減益にとどめる。

今後の取組み

- ◆ 21年度の黒字化に向けて企画・生産の見直しやスポーツカテゴリー毎の収益性を精査し改善を図る。
- ◆ ランナーズフェイスカバーに続き、フェイスゲイター及び日常使用が目的のフェイスカバーを10月に販売。

オニツカタイガー (OT)



VALENTINO GARAVANI X ONITSUKA TIGER
Collaboration Sneaker



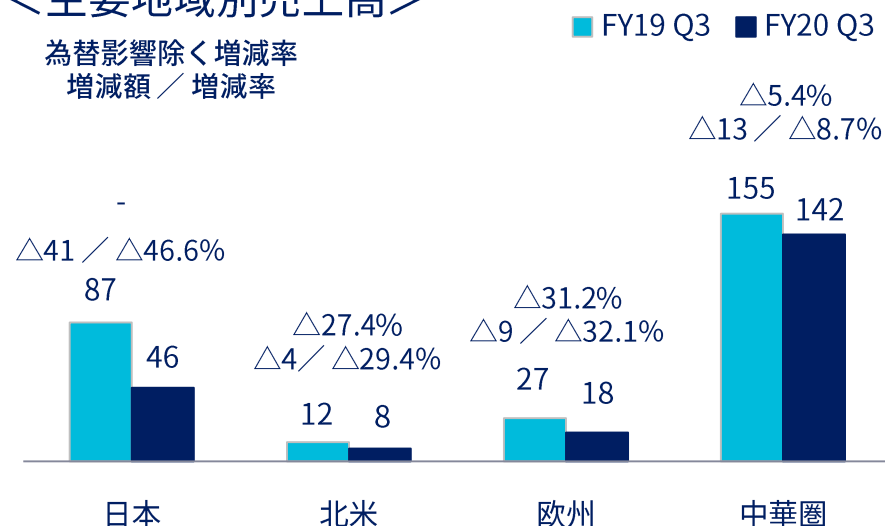
(単位：億円)

<第3四半期業績>

	FY19 Q3	FY20 Q3	前期比 増減額	増減率
売上高	350	254	△96	△27.4%
為替影響除く増減		262	△88	△25.3%
営業利益	75	14	△61	△80.9%
営業利益率	21.7%	5.7%	-	△16.0ppt

<主要地域別売上高>

為替影響除く増減率
増減額／増減率



売上高

- ◆ 日本におけるインバウンド需要減少の影響を大きく受ける。但し国内顧客向け売上はほぼ前期と同レベル。
- ◆ 中国での第3四半期累計売上高は為替影響を除くと前期比プラス。
- ◆ ECは全地域において前期比プラス。

営業利益

- ◆ プレミアムファッションブランド維持のため、継続的な価格戦略の実行により粗利率上昇。
- ◆ 新型コロナウイルスの影響による減収のため減益。

今後の取組み

- ◆ 中国、アジアを中心とした海外でのECおよびリテール強化。
- ◆ 世界主要都市のメインストリートに大型店舗3店舗を出店予定（北京、ミラノ、ロサンゼルス）。
- ◆ 女性・若年層を対象とした顧客層の拡大。
- ◆ セレブリティを有効活用したデジタルマーケティング強化と集客力のあるECサイトでの出店。

3. 2020年12月期第3四半期 連結経営成績（地域別）

- 地域別連結売上高およびカテゴリー構成
- 連結売上高内訳（地域別）
- チャネル別売上
- 月別・四半期別売上高
- 連結営業利益内訳（地域別）

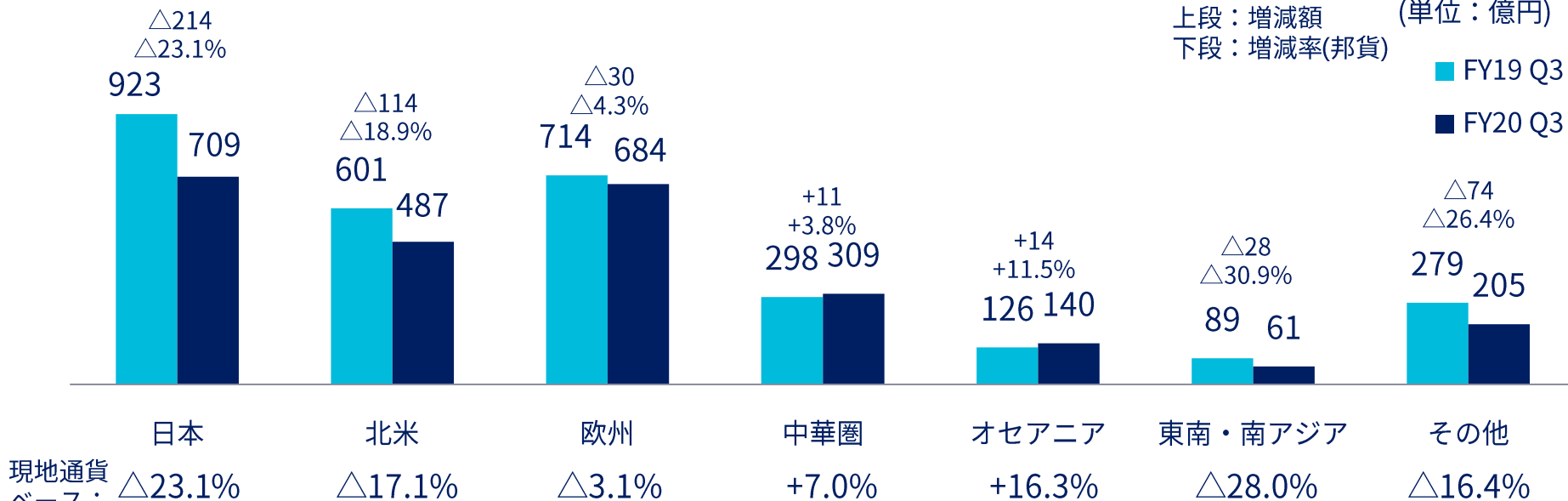
地域別連結売上高及びカテゴリー構成



<売上高>

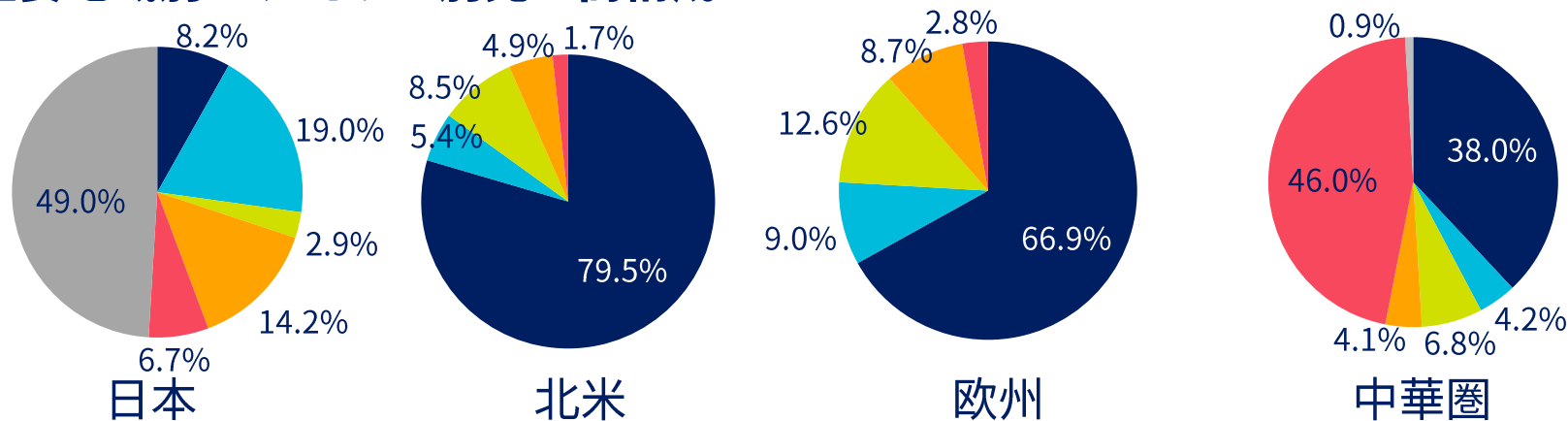
上段：増減額 (単位：億円)
下段：増減率(邦貨)

■ FY19 Q3
■ FY20 Q3



<主要地域別カテゴリー別売上高構成>

■ P.Run ■ CPS ■ SPS ■ APEQ ■ OT ■ その他



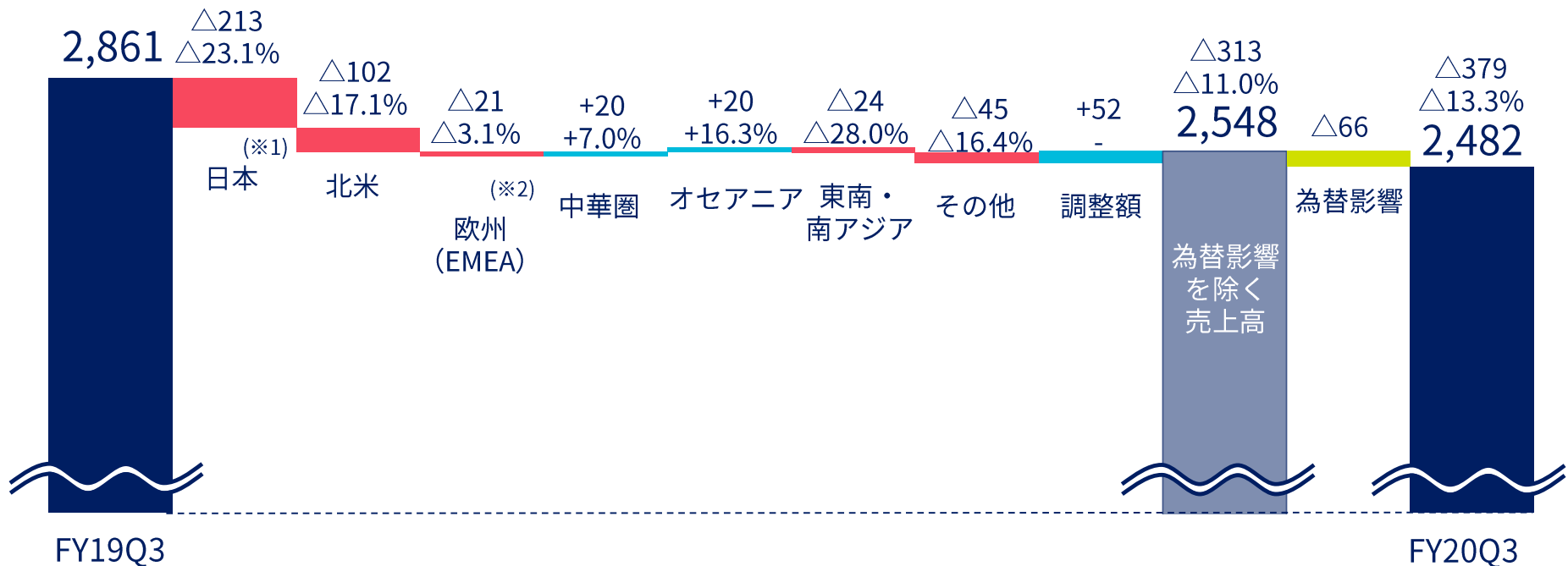
連結売上高内訳（地域別）

- ✓ 新型コロナウイルスの影響により減収。但し、第3四半期期間は、為替の影響を含む増減率が欧州+26%、オセアニア+32%、中華圏+11%と2桁成長。
- ✓ 中華圏は第3四半期累計で増収。

上段：増減額

下段：増減率(現地通貨ベース)

(単位：億円)



(※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。

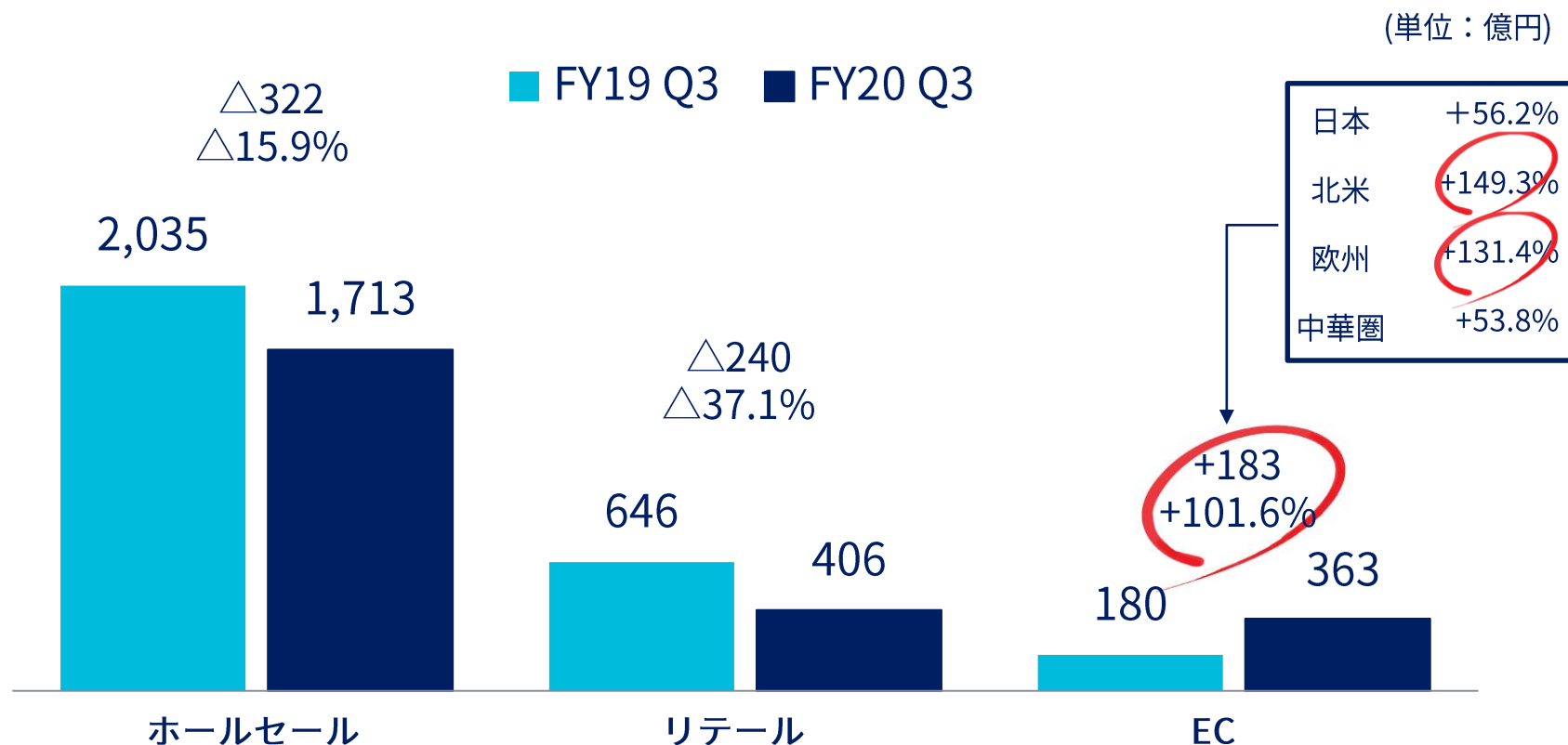
(※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

チャネル別売上高



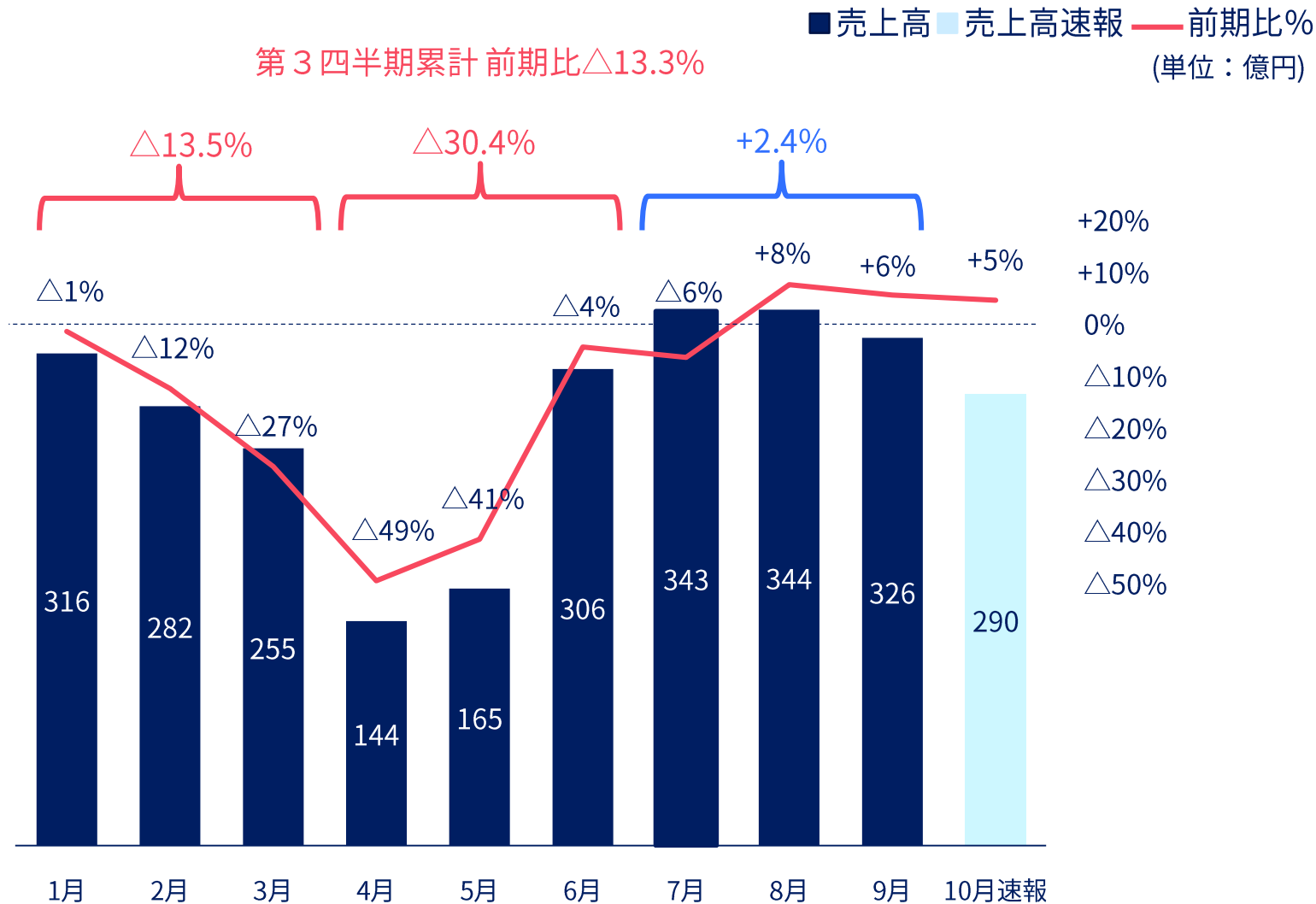
- ✓ ホールセール及びリテールは店舗一時休業等により減収。但し、第3四半期期間で欧州が牽引しホールセールは増収。
- ✓ ECは前期比2倍超に成長。特に北米や欧州で大幅に増収。

上段：増減額
下段：増減率



※自社ECサイトとマーケットプレイスはECに含み、ホールセールEリテラーはホールセールに含む。

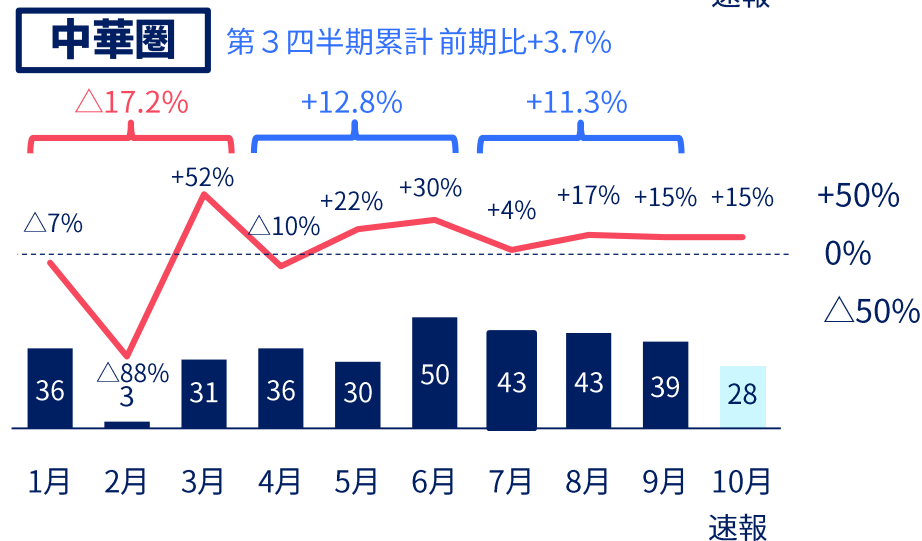
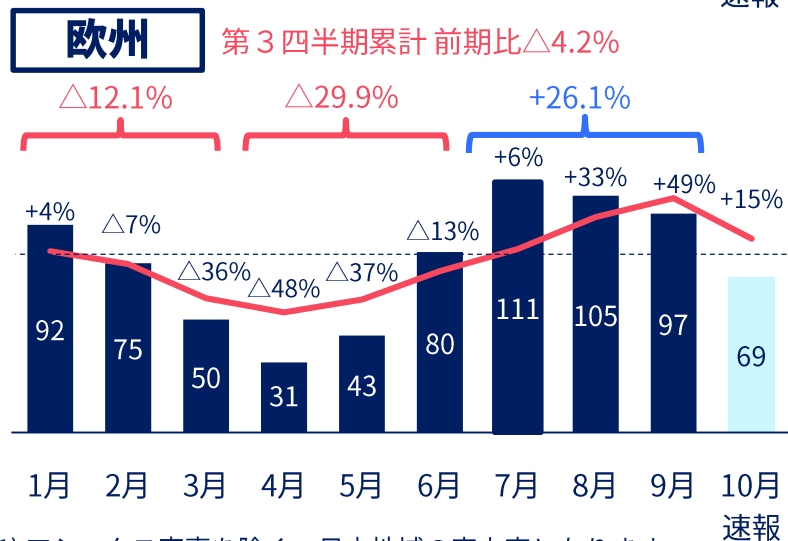
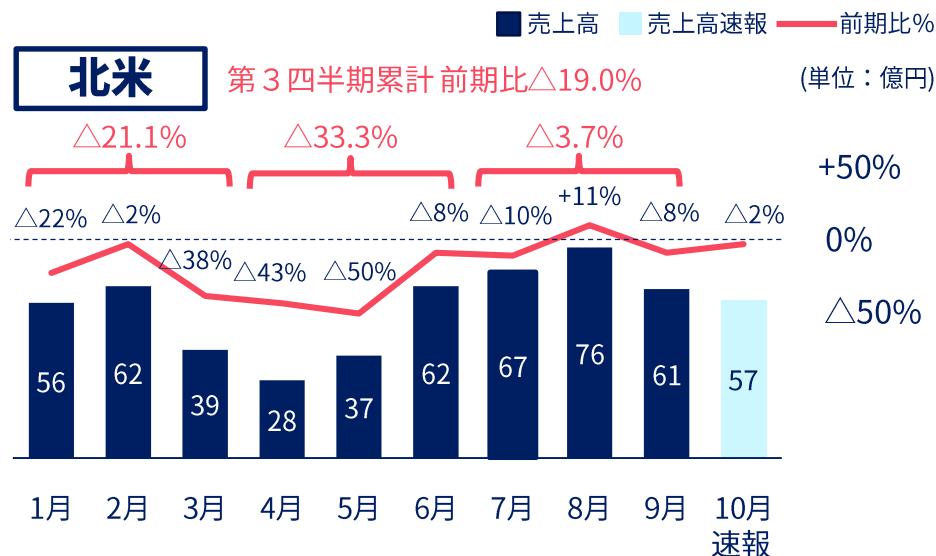
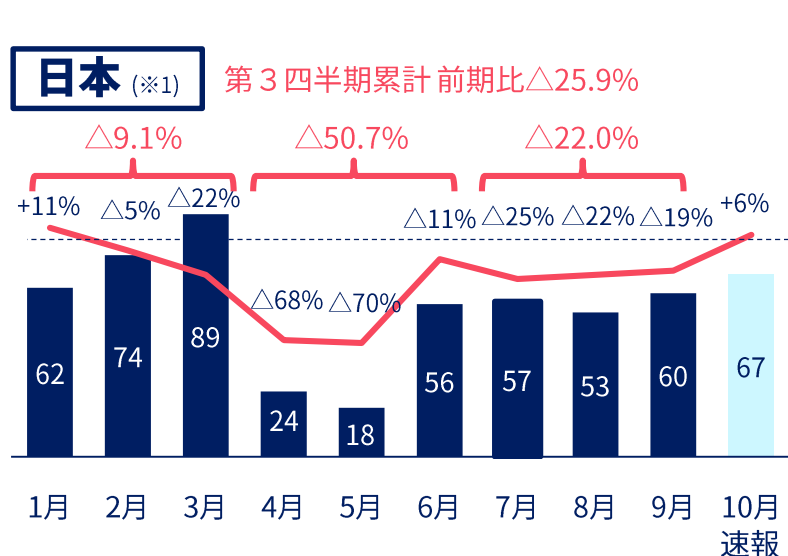
- ✓ 2月以降店舗の休業等で売上が大幅に落ち込んだが、中華圏・欧州・北米と順次回復し、8月以降は前期比増収で推移。第3四半期期間はP.Runが牽引し想定以上に回復。



主要4地域の月別・四半期別売上高



✓ 中華圏は5月、欧州は7月から売上が前期を上回る。北米も回復傾向にあるが、日本はインバウンド減少等により減収。



(※1) アシックス商事を除く、日本地域の売上高となります。

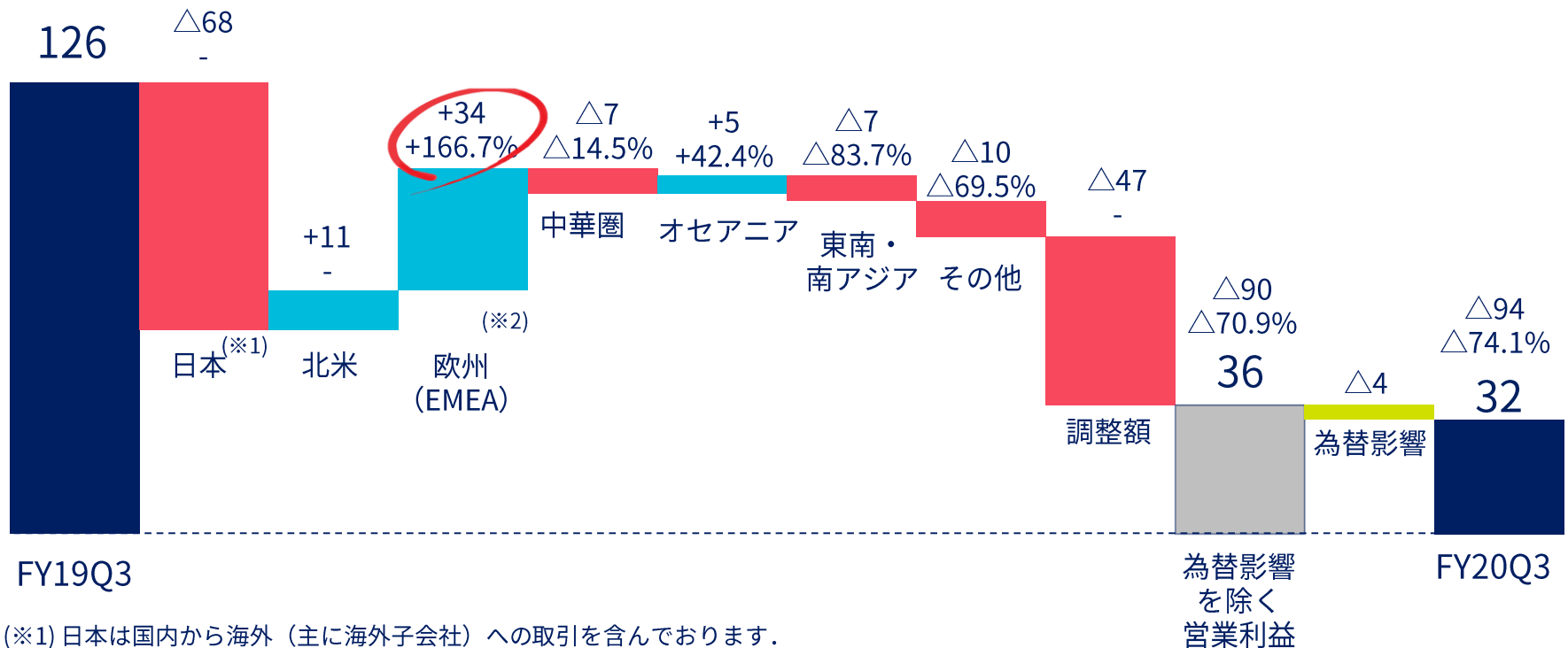
(※2) 10月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じることがあります。

連結営業利益内訳（地域別）

- ✓ 欧州において粗利率の改善および販管費コントロールが功を奏し、第3四半期累計は前期比+167%の営業利益を確保。
- ✓ オセアニアは引き続き増益。
- ✓ 日本はインバウンド減少に加え、一時的イベント関連費用の発生（調整額も同様）もあり減益。

上段：増減額
下段：増減率(現地通貨ベース)

(単位：億円)



(※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。
(※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

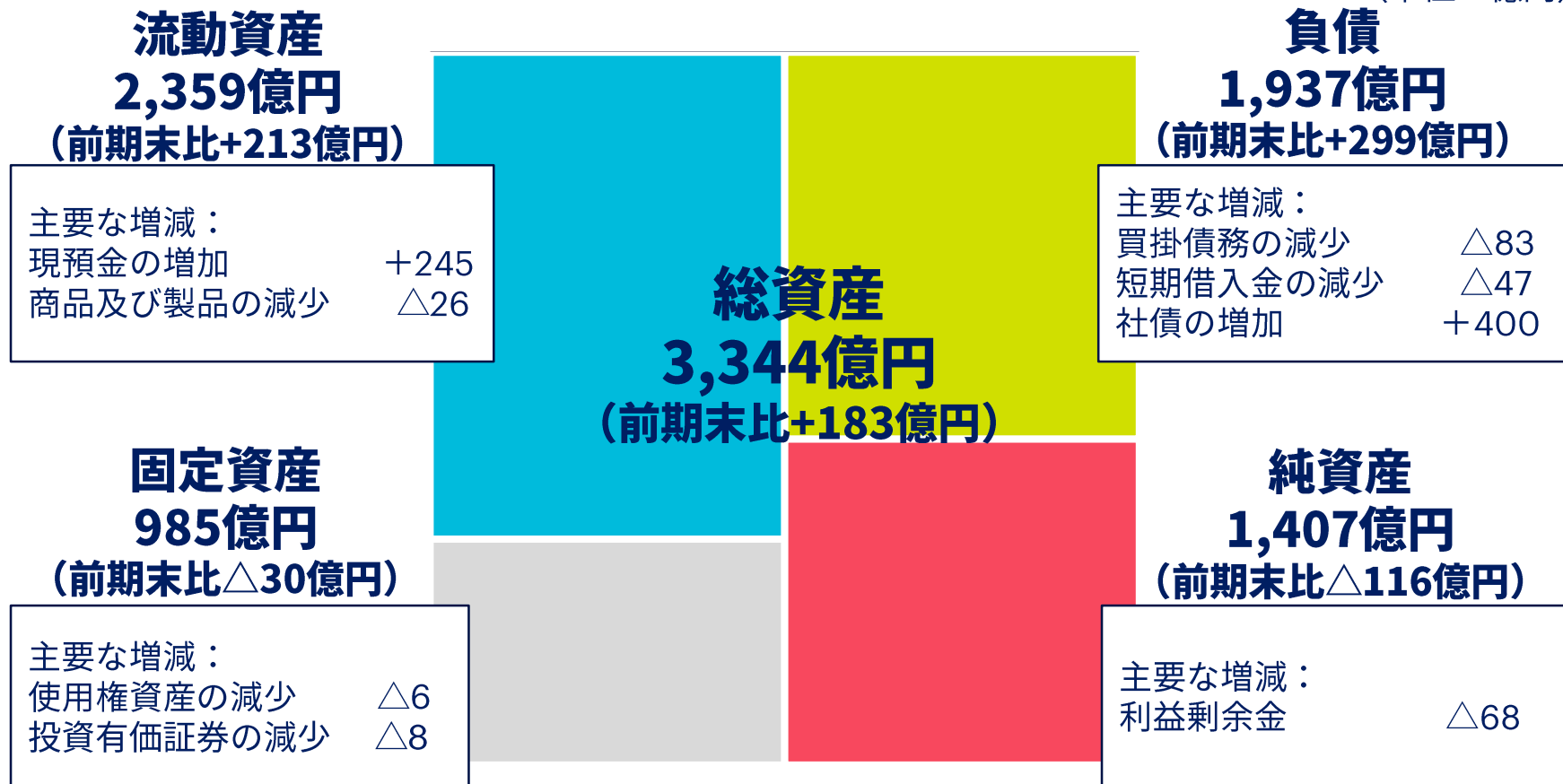
4. 2020年12月期第3 四半期 連結財政狀態

連結貸借対照表



- ✓ 商品及び製品、売掛債権ともに減少。
- ✓ 手元流動性を高めるために社債並びに長期借入金による資金調達を実行し、現預金が増加。

(単位：億円)



自己資本比率：41.9%
(前期末：48.0%)

5. 2020年12月期 連結業績予想

2020年12月期 連結業績予想

				2020年12月期 今回予想	2020年12月期 前回予想	増減率	
売	上	高		3,200	3,000	+7%	
営	業	利	益	△60	△140	-	
営	業	利	益	率	△4.7%	-	
経	常	利	益	△90	△170	-	
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る							
当	期	純	利	益	△170	△220	-

【配当金】	中間	期末	通期
2019年12月期 普通配当	12.0円	12.0円	24.0円
2019年12月期 記念配当	—	6.0円	6.0円
2020年12月期 予想	0.0円	24.0円	24.0円

【為替レート】	USD	EUR	RMB
2020年12月期	107.00円	121.00円	15.50円

- ✓ 新型コロナウイルスによる著しい減収は当初想定より早期に回復．当第3四半期期間にP.Runが好調に推移し、販管費削減の進捗もあり予想を修正．
- ✓ 配当予想は変更なし．
- ✓ 新型コロナウイルスによる再度の大規模な経済活動の停滞など、様々な要因により実際の業績は大きく異なる可能性あり．

2020年12月期 連結売上高予想：カテゴリー別

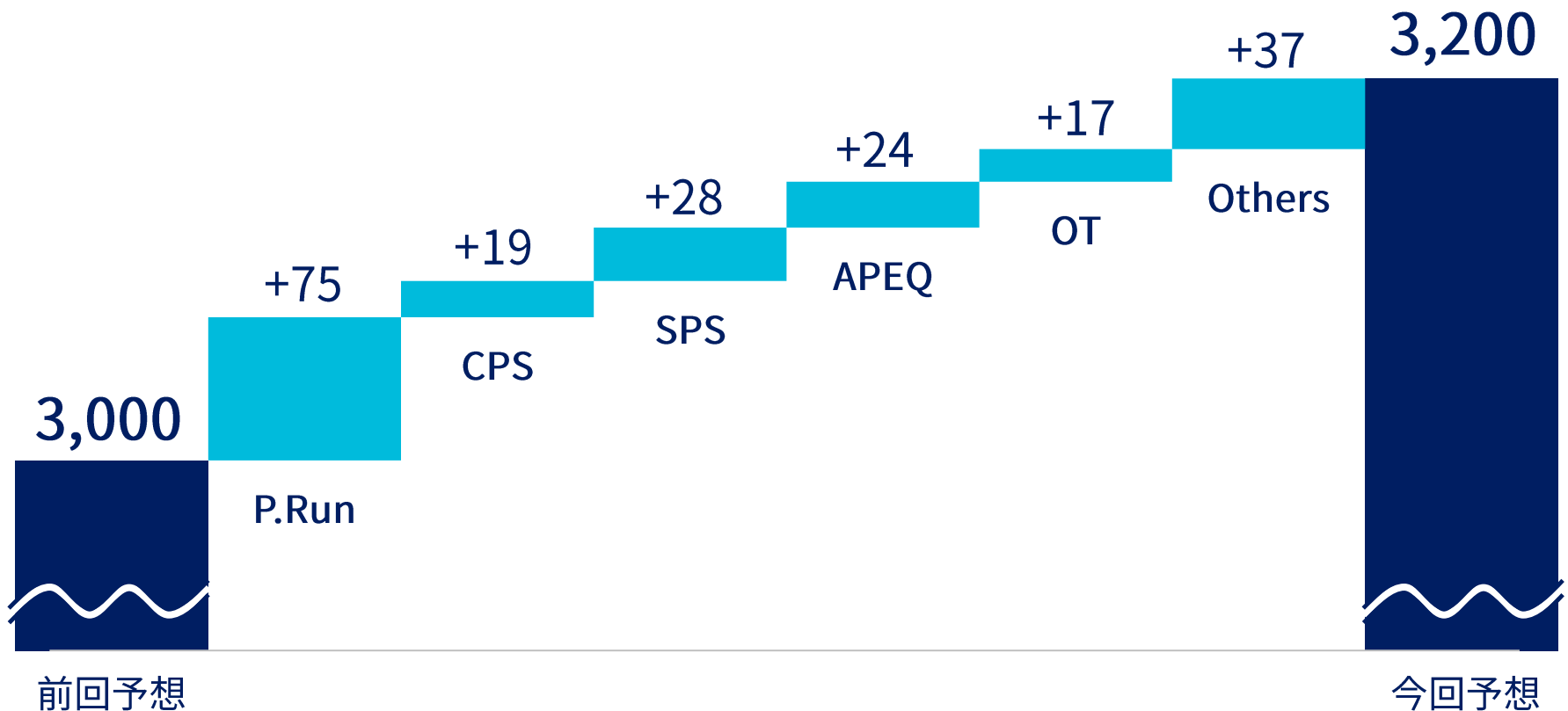


(単位：億円)	2020年12月期 今回予想	2020年12月期 前回予想	増減率
P.Run	1,610	1,535	+5%
CPS	335	316	+6%
SPS	290	262	+11%
APEQ	300	276	+9%
OT	350	333	+5%
その他	315	278	+13%
合計	3,200	3,000	+7%

2020年12月期 連結売上高予想増減：カテゴリー別

- ✓ 売上高は3,200億円、前回予想から+7 %の上方修正。
- ✓ ランニング人口の増加に伴う需要を、主要取引先との連携強化やデジタルでの取組みを通じて獲得し、P.Run中心に増加を見込む。

(単位：億円)



※新型コロナウイルスによる再度の大規模な経済活動の停滞など、様々な要因により実際の業績は大きく異なる可能性があります。

2020年12月期 連結売上高予想：地域別

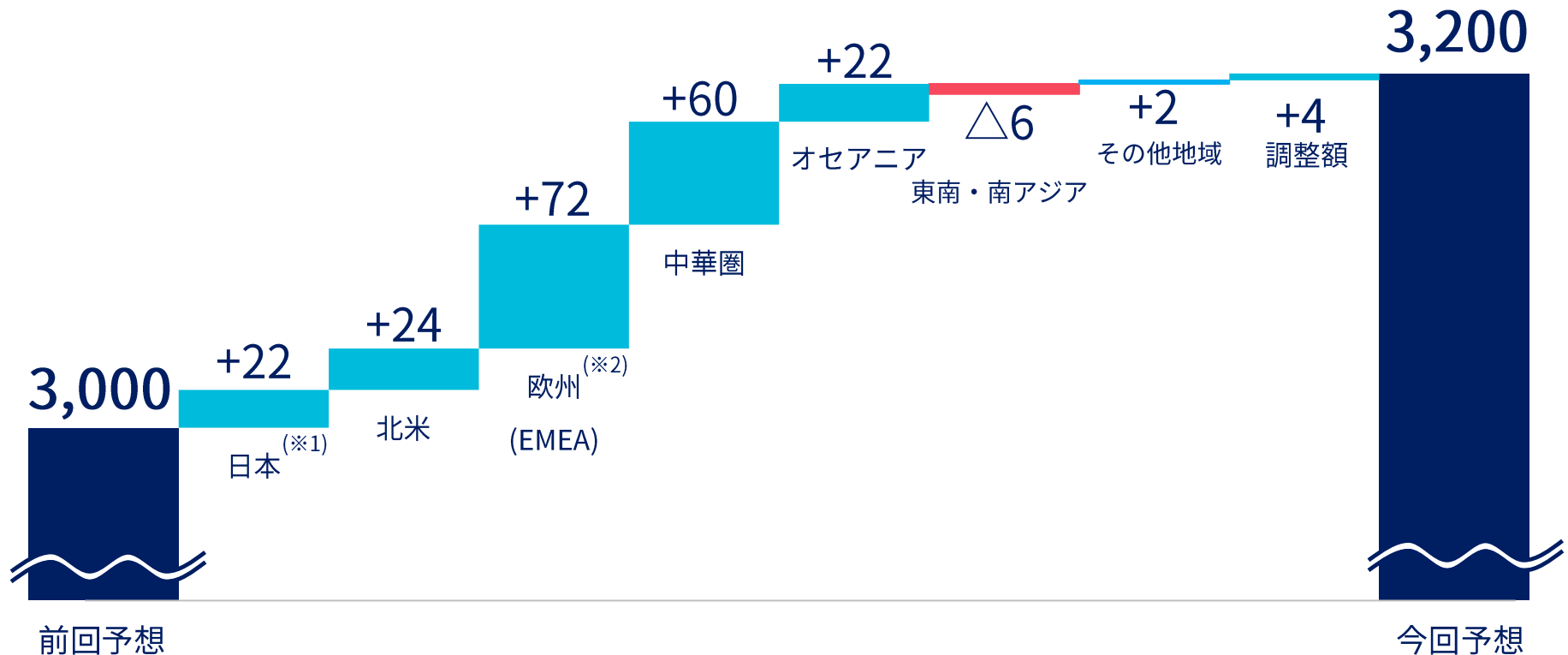


(単位：億円)	2020年12月期 今回予想	2020年12月期 前回予想	増減率
日本 地域	935	913	+2%
北米 地域	660	636	+4%
欧州（EMEA） 地域	860	788	+9%
中華圏 地域	415	355	+17%
オセアニア 地域	200	178	+12%
東南・南アジア 地域	85	91	△7%
その他	275	273	+1%
調整額	△ 230	△234	-
合計	3,200	3,000	+7%

2020年12月期 連結売上高予想増減：地域別

- ✓ 新型コロナウイルスによる経済活動の低迷は当初の想定よりも早期に回復.
- ✓ 地域別では欧州、中華圏が牽引.

(単位：億円)



(※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。

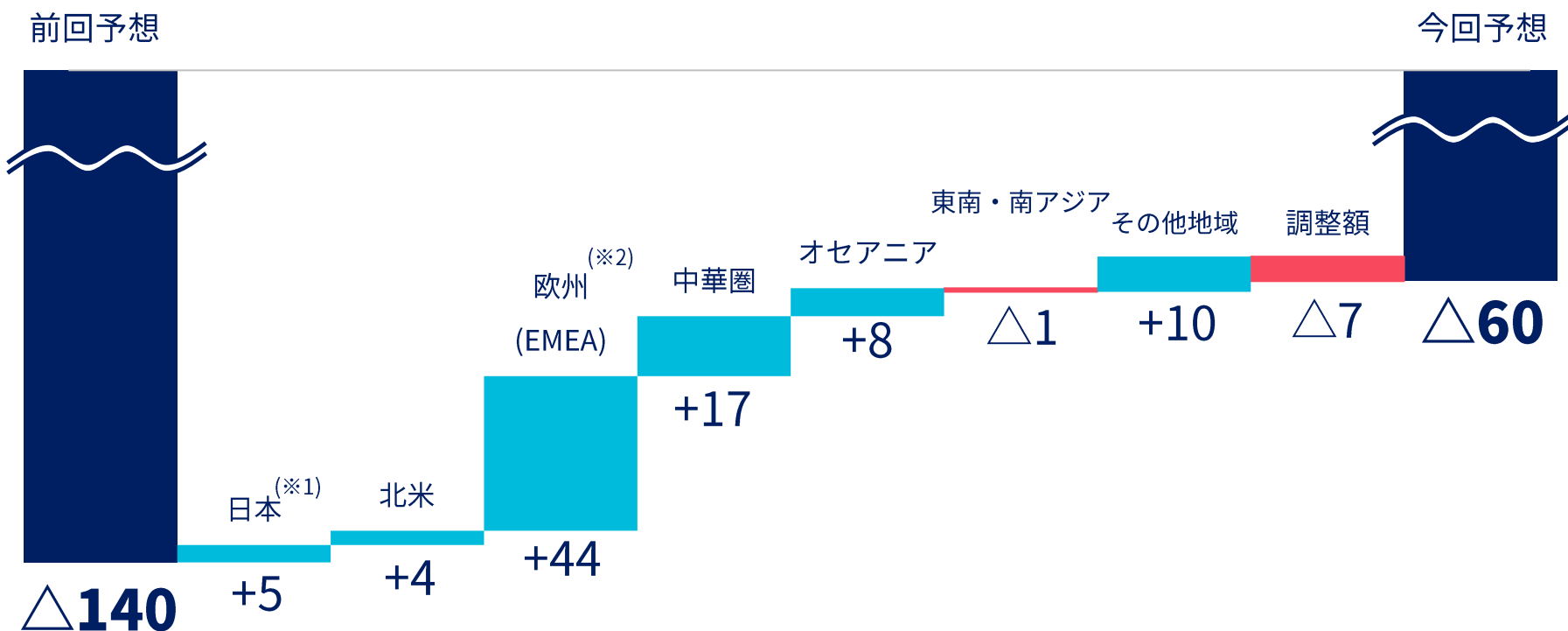
(※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

(※3) 新型コロナウイルスによる再度の大規模な経済活動の停滞など、様々な要因により実際の業績は大きく異なる可能性があります。

2020年12月期 連結営業利益予想増減：地域別

- ✓ 営業利益は△60億円、前回予想から+80億円の上方修正。
- ✓ 販管費の削減を引き続き実施し、各地域で営業利益の改善を図る。

(単位：億円)



(※1) 日本は国内から海外（主に海外子会社）への取引を含んでおります。

(※2) 欧州（EMEA）はEUR連結の数値を現地通貨ベースと表記しております。

(※3) 新型コロナウイルスによる再度の大規模な経済活動の停滞など、様々な要因により実際の業績は大きく異なる可能性があります。

6. 補足

主な予定

2020年12月期第3四半期決算	11月6日	15:00 15:30	決算発表 電話会議 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
2020年12月期決算	2021年2月12日 2021年2月15日	15:00 15:00	決算発表 決算及び中期経営計画説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け

コロナ禍におけるランニング市場動向

✓ 個人で手軽に楽しめるランニングを実施する人が増加。

＜余暇に実施するスポーツの割合＞

Q. Which of these sports do you participate in in your free time?

週に1回以上ランニングを実施すると回答した割合

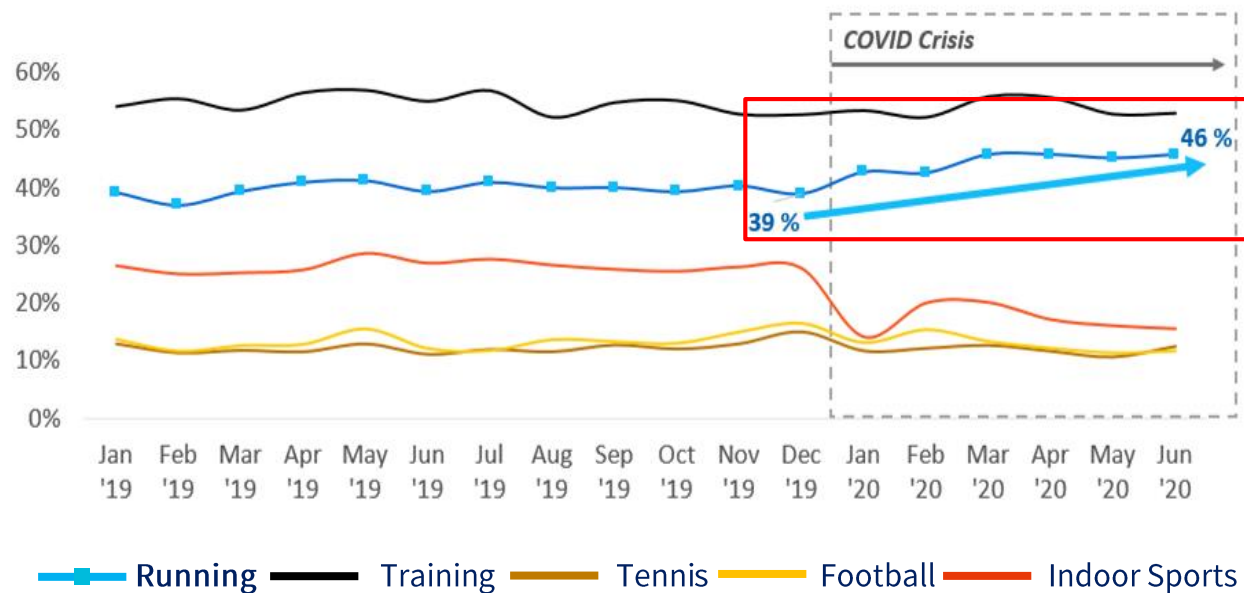
39%

(2019年12月)



46%

(2020年6月)



出典：MetrixLab Brand tracking

ランニングエコシステムの確立に向けて

- ✓ コロナ禍では、エクササイズが重要との回答が75%（自社調べ）。
- ✓ マラソン大会等が中止される中、1,000超のバーチャルレースを積極開催。
約68万人参加（3月-10月）。

＜ランニング意識調査（自社調べ）＞

新型コロナウイルス感染症の影響で、
エクササイズが重要であると考えようになったと回答



新型コロナウイルス感染症の収束後も、
現在と同じように走り続けたいと回答



ランニングには精神的なメリットがあると回答



ランニングは頭をスッキリさせるのに役立ったと回答



＜調査概要＞

調査期間：2020年4月1日～5月31日

調査対象：定期的にエクササイズを行っている世界12カ国の男女

回答者数：14,000人

調査方法：インターネットによる調査

＜バーチャルレースの開催＞



ASICS WORLD EKIDEN 2020
(2020年11月開催予定)



神戸マラソン
(2020年11月開催予定)



奈良マラソン
(2020年12月開催予定)

＜ランニングエコシステム＞



用語	意味
パフォーマンスランニング	ランナーが快適に走ることができ、優れたパフォーマンスを発揮できるように機能性をもたせたランニングシューズ。ランナーの走り方や走力などに応じたさまざまなランニングシューズを展開。
スポーツスタイル	ランニングやトレーニングをライフスタイルに取り入れ楽しむファンランナー向けのランニングシューズやデザイン性に優れカジュアルにスニーカーとして使用できるシューズの総称。アシックスタイガー含む。
コアパフォーマンススポーツ	陸上競技、テニス、バレーボールなどの競技スポーツ用のシューズ。スポーツ選手が高いパフォーマンスを発揮できるように優れた機能性を備える。
<u>オニツカタイガー</u>	社名をアシックスとする1977年まで、かつて競技用だったシューズを、2002年に洗練されたスタイルを求めてスポーティなファッションブランドとして復刻。
<u>ウォーキングシューズ</u>	スポーツシューズづくりと同様に、日常生活での履きやすさや歩きやすさを追求したライフスタイルシューズ。
<u>ワーキングシューズ</u>	アシックススポーツ工学研究所による研究知見を生かした、建設、運輸、医療などの現場での立ち仕事や現場作業向けのシューズ。
<u>ホグロフス</u>	ハイパフォーマンスかつサステナブルなアウトドアギアを提供するブランド。2010年以降アシックスグループ。
<u>ASICS Runkeeper</u>	スマートフォン端末のGPSにより、ランニング、ウォーキング、サイクリングなどの運動を追跡・記録するフィットネス・トラッキング・アプリ。
<u>OneASICS</u>	さまざまな会員限定特典を提供するアシックスのメンバーシッププログラム。
Race Roster (レースロースター)	北米を中心に展開するレース登録プラットフォーム。ランナーがレースに申し込みをする際のウェブページやレース結果照会ページ等の提供を行う。